



ひかりのこ

2020年度 **6月号**

日本キリスト教団
名古屋新生教会 教会学校だより
 名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820
 HP: <http://www13.plala.or.jp/n-sinsei-church/>

教会学校礼拝・こどもれいはい 再開します

新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言も全国的に解除され、学校等の教育活動も再開されましたので、6月7日（日）より、教会学校礼拝・こどもれいはいを再開します。（分級は密接場面での会話等を伴うため、感染予防の観点から、引き続き休止します。）

礼拝堂等の換気や消毒には十分配慮をしておりますが、当面の間はマスク着用や手洗い等、各自の感染予防にご協力をお願いいたします。

学校などの休校期間中、みなさんはどのように過ごしていらっしゃいますか。コロナ情勢は終息したわけではなく、新たな局面に入ったといえます。まだまだいろんな不安や心配がありますが、みなさん一人ひとり、心も体も健康に過ごしてほしいと祈っています。

今月の礼拝 単元3: 地上を歩まれた神の子 I

月日	週 題	聖書箇所	教会学校礼拝 (小5~中高生) 9:00 ~ 9:30	分級 I (小1~小4) 分級 II (小5~中高生) 9:35 ~ 9:55	こどもれいはい (幼児~小4) 10:00 ~ 10:20
6月7日	ニコデモの訪問	ヨハネ福音書 3:1-15	武岡路実	分級は 当面の間、 お休みします。	武岡 基
6月14日 <small>花の日・子どもの日</small>	権威あることば	ルカ福音書 4:31-41	林 小夜子		安達正樹牧師
6月21日	中風の人の癒やし	ルカ福音書 5:17-26	安達正樹牧師		安達いつみ
6月28日	嵐を静める	マルコ福音書 4:35-41	武岡 基		武岡路実

花の日・子どもの日 6月14日

教会の暦で、6月第2週の日曜日は「花の日」と「子どもの日」です。「花の日」として、教会を花で飾ったり、花を持って自分たちがお世話になっている方々を訪問したり、お見舞いに行ったりすることもあります。また「子どもの日」としては、子どもの健康や成長を祈る礼拝を守ったり、祝会を催したりします。

名古屋新生教会では礼拝堂にお花を飾って礼拝を守ります。



今月の聖句

わたしは世の終わりまで、
いつもあなたがたと共にいる。

(マタイ 28:20)

今月のさんびか♪



こどもさんびか 16 (イエスさまいるってほんとかな)

「神さまって本当にいるの?」「イエスさまって今でもいるなんて嘘じゃない?」子どもだけでなく大人でも、誰もが疑問に思うことではないでしょうか。それだけに理解するのはなかなか難しいことでもあります。むしろ大人のほうが理解しにくいことかもしれません。私たちは大人になるにつれ様々なことを学び、いろんな経験を重ねていくうちに、物事に対して理論や根拠などを考えるようになってしまいます。そして自分の知識の“ものさし”で物事を見てしまい、自分の知識や考え方に合わないか否定的に捉えて、それは誤りや偽りだと判断してしまうこともあります。

6月の礼拝では「イエスさまの歩み」について学びます。この賛美歌の作詞・作曲はドミニコ会修道女のセシリー・シーヒィさん (Cecily Sheehy 1938~) です。ニュージーランドのバルクルーサーで生まれ、聖ドミニコカレッジで学び、1957年にドミニコ会に入会、1961年に終生誓願(修道会における自発的な神への誓いで、イエス・キリストに倣う生き方として、福音的勧告と呼ばれる、貞潔、清貧、従順を一生にわたって貫く約束)を立てました。その間にピアノとヴァイオリンでトリニティ・カレッジ・ロンドンの資格を取得したほか、フルートやクラシックギターも学んでいます。その後、南島各地のドミニコ会修道院での教育に従事し、ラテン語の賛美や答唱の英訳、古い旋律の簡素化を担いました。1980年代半ばにはアメリカ聖公会のマシュー・フォックス司祭のもとでクリエーション・スピリチュアリティ (Creation Spirituality 「創造の聖霊性」…神が創造されたすべてを聖なる贈り物として尊重する考え方) を学び、そこから地球や被造物への配慮を歌う賛美歌の創作へと促されました。2000年にはオークランド大学で音楽学学士号を取得し、これまでに27の歌がニュージーランド国内で出版されています。現在は個人的な音楽指導、生徒や信徒のための作曲など、80歳を過ぎた今でも音楽活動を続けられ、昨年にはFacebookにオーストラリアの山林火災に対する世界的な祈りのお願いを投稿されるなど、ご活躍されています。

この賛美歌は1980年にカトリックの雑誌『ファミリー・リビング』に子どものための歌として発表されました。5節からなる原詞 “How is Jesus present?” (イエスはどのように存在していますか?) を日本語詞では3節にまとめています。マタイ28:20「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」に基づく問答形式の詞で、どうすれば目には見えないけれども確かに存在しているイエスさまを感じることができるかという、子どもだけでなく大人にとっても重要な問題の答えを、シンプルな言葉で表現しています。イエスさまがいるということに対して、1節では「ほんとかな」と誰もが考える疑問の気持ちで表し、2節で「ほんとだよ」とまるで聖書が語っているかのような言葉で表し、3節で「ほんとだね」と私たちが実感としてイエスさまを感じる姿が表されています。復活のしるしを求めたトマスの物語も思い起こさせます。

「教会学校」ってなあに?

教会に行ったことのない人にとって、教会は「敷居の高いところ」といったイメージがあるのではないのでしょうか。そして、教会に通っている人のイメージは「崇高な人」「強い心を持った人」「信仰深い人」ではないのでしょうか。いやいや、実際にはそんなことはないですよ。教会は誰にでも開かれた、どんな人が行ってもよい場所です。誰にとっても「自分の居場所」となるところです。教会に通っている人は、もちろん信仰深い人もいますが、信仰が弱く、普段は神さまのことを忘れてしまうから、日曜日には神さまのことを思い出すようにと教会に通っている人もいます。心が弱いことを自覚しているからこそ、神さまに支えてもらうために教会に通っているのです。

では「教会学校」って何だろう? 「学校だから勉強するところ?」「クリスチャンになるための養成所?」いえいえ、まったく違います。簡単に考えると、子どものための教会、つまり、子どもにとっての「自分の居場所」となるところです。礼拝では聖書(神さまの言葉)を子ども向けにわかりやすくお話しします。礼拝後の分級では学校とは違った自由な雰囲気です。楽しい時間を過ごします。「教会学校礼拝」「こどもれいはい」それぞれ対象年齢を示していますが、どちらに出席されても構いません。普段は礼拝に出席していない人で、行事に参加してもらっても大歓迎です。

名古屋新生教会は人数も少なく、家庭的であたたかい教会です。いつからでも、誰でも、大歓迎します。